

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成 29 年度採択）

中間評価（案）（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
29-8	部分係数設計に向けた塑性化を考慮した鋼桁設計法の研究開発	長岡技術科学大学 准教授 宮下 剛	B
<p><研究の概要></p> <p>本研究は、断面の一部塑性化を許容した鋼桁の耐荷力特性を実験および解析により把握することを目的としている。さらに、各国の鋼橋の設計基準を分析し、現在の道路橋示方書では具体的に記述されていない、部材の一部塑性化を考慮した鋼桁の設計法の開発を行う。</p> <p><中間評価結果></p> <p>鋼桁の耐荷力実験の実施やデータの蓄積および解析は計画通り順調に進んでいるが、各実験・解析ケースの実施諸条件の整理に課題があることから、指摘事項に留意しながら現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p><今後の研究計画・方法への指摘事項></p> <ol style="list-style-type: none">1. 各実験・解析のケースについて、なぜそのような手法や条件を選定したのか、どのような破壊モードを想定したものなのか、設計基準における哲学との関係を明確にするとともに最終成果イメージを見据え、体系的に説明できるようにしていただきたい。2. 構造物の補修・補強を念頭に、耐久性能を考慮した設計法の充実について、引き続き取り組んでいただきたい。3. 部分係数設計法の適用拡大による道路橋示方書のさらなる充実化に向け貢献いただきたい。			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第 36 回新道路技術会議において審議したものである。